

クローズアップ NGO・NPO

特定非営利活動法人

柔道教育ソリダリティー 事務局長 光本 恵子

『柔道・友情・平和』をモットーに
世界の人々と柔道を通して友情を育むために

■ 認定NPO法人 ■ 柔道教育ソリダリティーとは？

NPO法人柔道教育ソリダリティー（NPOJKS）はロサンゼルスオリンピックの金メダリスト、現東海大学理事・副学長の山下泰裕理事長を中心に、多くの人たちの協力と支援によって2006年に設立されました。『ソリダリティー』というあまり聞きなれない言葉ですが、『連帯』という意味です。国際オリンピック委員会でも選手・コーチ育成のプロジェクトにこの言葉を使うなど、よくスポーツ界で聞く言葉ですが、元をたただせばポーランドの故ワレサ議長が使った言葉で、困っている人、貧しい人、弱い人を含め団結して、強い絆で結ばれることを意味しています。

■ 活動内容

NPOJKSには大きな3つの活動の柱があり、その中でさまざまなプロジェクトが展開されています。3つの柱とは、

① 国際的な柔道の普及 — 「自他共栄」を実現するために

今やオリンピックスポーツとして世界の多くの人に愛されている柔道は、一流競技者から一般市民に至るまで愛好され、各国の文化的特性と融合しながら、柔道の創始者、嘉納治五郎師範が掲げた「自他共栄」の実現を目指しています。

② 柔道を通して日本の心を伝え、さまざまな国との文化交流に役立てるために

現在の国際情勢を考えると、紛争やテロ、地域

環境の劣化、南北格差拡大、人口増加などの問題が山積みされております。一部の発展途上国では指導者、柔道衣、畳や教材などが不足し、柔道を学びたくても学べない現状がある中で、柔道を通して「柔道の心」、「日本の心」を伝えて柔道の普及活動に寄与したいと思っています。

③ 柔道を通して子どもたちの育成に携わっていくこと

NPOJKSは柔道の振興と普及に微力を尽くしたいと考えています。柔道を通して世界の人々が心を通い合わせ、お互いの文化を理解することが「自他共栄」を実現することへの近道と考えています。また、これからの世界を担っていく青少年を、柔道を通して育成することも大切なことと考えています。

そして、私たちはこれらの柱を中心に以下のような活動を展開しています。

【リサイクル柔道衣の送付】

国際柔道連盟には現在200を超える国や地域が加盟していますが、多くの国は貧しく、柔道衣ではなく短パンやTシャツで柔道をしているのが現状です。一つの柔道衣を着回しているところもあり、NPOJKSでは、そうした発展途上の国々にリサイクル柔道衣や畳の無償提供をしています。2013年3月末までに、146か国へ38,884着のリサイクル柔道衣を送付しました。



リサイクル柔道衣をザンビアに寄贈

【指導者やボランティア学生の派遣】

2014年までに、10か国へ44人の日本人指導者およびボランティア学生の派遣をしてきました。主に中国、ロシア、イスラエル、パレスチナ、ミャンマー、ラオスなどへ派遣し、現地にて柔道教室の実施をしてきました。



山下理事長による中国・南京友好柔道館での指導

【選手や指導者の受け入れ】

2014年までに、13か国から256人の選手およびコーチを受け入れ、東海大学柔道部の協力を得て、コーチたちには柔道の実践的な指導法、選手たちには強化練習ができる環境を提供しています。



ロシアから女性コーチを招聘

そのほか、柔道教室、講演会、シンポジウムなどさまざまな活動を行っています。

■ 柔道の交流を通して世界の平和を考える！

現在、日本の隣国である中国、ロシアとの関係はあまり良い関係だとは言えません。NPOJKSは創設当時から、外務省の「草の根無償資金協力」を活用し、中国の青島と南京に柔道館を設立し、年に1～2回、柔道活動を通じた人的交流を展開しています。また、ロシアは女性コーチの育成が急務であることがわかり、これまでに3名の女性コーチを日本に招聘し、コーチ研修をしました。山下理事長も年に一度は訪露し、柔道指導をしています。柔道を通じた草の根交流の重要さを感じます。



イスラエルとパレスチナで柔道指導 (2010年)



イスラエルとパレスチナの子どもたちを日本へ招聘 (2010年)

また、イスラエルとパレスチナでも2010年よ

り、毎年コーチの受け入れと日本人の指導者派遣を実施しています。2010年に外務省からの派遣で山下理事長とシドニー五輪の金メダリスト、井上康生氏が現地に赴き、両国の子どもたちを集めて合同柔道教室を開催しました。その連携活動として、同年、両国の子どもたちを日本に招聘し、福岡で毎年開催されている、「サニックス国際中学生柔道大会」に参加し、同じ畳の上で一緒に練習をしました。両国には私たちが想像もつかないほど根深い問題があり、今日でも大きな問題を抱えています。同じ畳の上で、一緒に汗をかいた子どもたちが「私たちはここに平和を探しにきました」といった言葉には私たちに計り知れない重いものを感じました。

■ 「柔道・友情・平和」を考える

「柔道・友情・平和」の言葉は、対人競技である柔道の練習を通してたがいに励まし合って心技体を向上させ、その過程で信頼を培って固い友情を育み、もって平和で豊かな社会を築く人間になることを意味しています。山下理事長は柔道の競技者として、指導者として、そして教育者として、世界における普及活動に従事した経験から、柔道のスポーツとしての魅力と課題を認識しています。さらに私たちは、講道館柔道を創始した嘉納治五郎師範が掲げた『精力善用・自他共栄』の精神、およびピエール・ド・クーベルタンが提唱したオリンピックの精神（オリンピズム）に深く共鳴しています。

もし、NPOJKSが「何のために柔道を通じた活動を続けるのか？」と問われたならば、この言葉を答えとして挙げるでしょう。柔道の精神も、オリンピックの精神も、そしてNPOJKSのモットーも、スポーツを通してお互いを理解し世界平和に貢献することを表明しています。最強の競技者になることがスポーツの最終的な目的ではありません。心身のバランスの取れた人間になること、互いに助け合い、平和な社会をつくり支える人間になることが目的なのです。「一隅を照らす」ささやかな活動ですが、それによって少しずつ異文化理解が深まり、友情が培われていることを希望して、これからも活動を続けていく所存です。